



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2009.5

No. 301

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



サギ類の婚姻色を楽しむ

海老原美夫(さいたま市)

婚姻色って、何？

野鳥に「夏羽」と「冬羽」があるのはご存知ですね。羽や体の色や形が季節によって変化する鳥の場合、春から夏にかけて繁殖期の比較的華やかな色や形を「夏羽」、秋から冬にかけての比較的地味な色や形を「冬羽」と呼びます。

一般的に動物に関する「婚姻色」とは、魚、両生類、爬虫類などで繁殖期に現れる平常時とは違う色や斑紋のことを言いますが、野鳥の場合は、夏羽の中でも繁殖直前や繁殖中の一時季、くちばし、目先、足などの露出部に現れる特に鮮やかな色のことを言います。サギ類でよく観察されます。

かつてはあまり注目されることはなく、1982年に発行された日本野鳥の会『フィールドガイド日本の野鳥』初版には、サギ類の婚姻色に関する記述が見当たりません。(2007年に発行された増補改定版にはもちろんありますが。)もう20年以上前のことになるでしょうか、目先と足指が赤いコサギを見つけて写真に撮り、著名な野鳥観察家F氏に問い合わせたところ、「よくぞ聞いてくれました。それは婚姻色と言って……」と丁寧な説明をいただいたことを、「よくぞ聞いてくれました」



チュウサギ 虹彩が赤橙色で目先は黄緑色だが、この写真では良く見えない。チュウサギの良い写真が、今季の目標のひとつだ。

と言う言葉とともに、懐かしく思い出します。その時に私は初めて「婚姻色」という言葉を知りましたが、当時、婚姻色に関する知識は、あまり一般的ではなかったように記憶しています。

婚姻色って、どんな色？

『フィールドガイド日本の野鳥・増補改定版』と、山と溪谷社『山溪ハンドブック 日本の野鳥』、平凡社『決定版 日本の野鳥 590』、文一総合出版『日本の野鳥 550 水辺の鳥』から、県内で一般的なサギ類の、婚姻色に関する記述を抜き出してみました。

ヨシゴイ	婚姻色に関する記述が見当たらない。
ゴイサギ	虹彩：赤みが強い。目先：赤緑色。足：鮮紅色・濃紫赤色。
ササゴイ	目先：青。足：赤み。
アマサギ	アイリング：赤み。目先：赤紫色。くちばし：朱赤色。足：朱赤色。
ダイサギ (亜種チュウダイサギ)	虹彩：赤橙色。目先：コバルトブルー。足：赤み、濃いピンク色。
チュウサギ	虹彩：赤橙色。目先：黄緑色。足：少し赤み。
コサギ	虹彩：青緑色。目先：赤。足指：赤。
アオサギ	目先：赤。くちばし：赤みの強いピンク。足：赤みの強いピンク。

それぞれの図鑑は色について様々な表現をしていますが、ここにはその一部を書いております。いずれも夏羽中の一時季に婚姻色が現われるわけですから、例えばダイサギのくちばしは黒であるなど、夏羽の一般的特徴はここには書きません。

表紙の写真をご覧ください。本体写真(左上の顔)はアマサギ。赤みのあるアイリング、目先の赤紫色。くちばしの赤い色が見えます。

表紙左下はコサギ。虹彩の青緑色はあまり見えませんが、目先が単純な赤というより紫色を帯びた赤になっています。

表紙右上アオサギ。目先は十分に赤いとは言えませんが、くちばしの色は鮮やかです。

表紙右下ダイサギ(亜種チュウダイサギ)。虹彩の赤橙色、目先のコバルトブルーが見えます。

いつごろ見られるの？

表紙とこの記事内の写真のうち、ヨシゴイ以外を撮影した月日は次のとおりです。

ササゴイ	7月 27日
アマサギ	5月 21日
ダイサギ	6月 1日
チュウサギ	6月 1日
コサギ	6月 1日
アオサギ	3月 31日

早いもので3月末から、遅いもので7月末、多くは5月末から6月初めということになります。種類によって少しずつ時季が違いますが、私のフィールド、さいたま市大久保農耕地では、オオヨシキリやカッコウが鳴き、キジのほろうちが聞こえるこれからが、サギ類の婚姻色を楽しむ最適な季節です。

農作業の邪魔にならない畦道に座り込ん



ササゴイ 目先が少し緑色に見える。7月27日という撮影日から考えて、婚姻色のなごりかもしれない。



ヨシゴイ 2008年5月から7月は、数つがいの繁殖を継続して観察することができた。

で、あれは目先の色は大分出てきたけど、虹彩の色はまだ足りないな、などとじっくり観察するのは、かなり楽しいひと時です。夏羽は月単位の期間見られますが、婚姻色が見られる期間は短く、1個体としては週単位の期間ではないかと想像しています。

中でもチュウサギは、ある図鑑に「婚姻色はあまり長い期間ではない」と書かれているように特に期間が短いのかなと思われ、私がチュウサギの典型的な婚姻色に出会う機会が少ないのは、それが原因なのかも知れません。

ヨシゴイの婚姻色は？

前記のとおり、目を通した図鑑にヨシゴイの婚姻色については書かれていません。ヨシゴイに婚姻色はないのでしょうか。

2008年7月6日、さいたま市桜区大久保農耕地で撮影した写真(このページ右上)があります。モノクロ印刷では分らないのですが、オスと思われる個体のくちばし、特に基部が赤く、後頸部から背にかけてもかなり赤くなっています。同じ日に目先からくちばし基部が赤いメスと思われる個体も撮影しました。これが婚姻色かどうかわかりませんが。

もしかしたら、まだ良く分っていないこともあるのかも知れません。1個体が1シーズンで何日間くらい婚姻色になっているのか、種類や年齢によってその期間や時季はどう違うのかなども含めて。そう思うと、観察はますます楽しいものになります。

第2次県内野鳥分布調査

2008/09 年冬 ユリカモメの生息

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

表1 調査概要

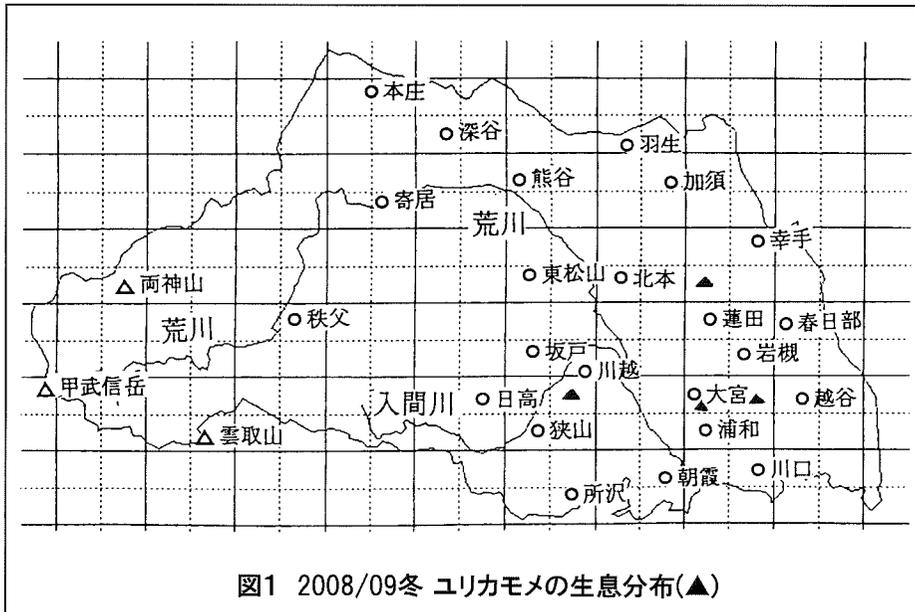
調査期間	2008. 12. 1～2009. 1. 31
調査方法	調査はがきによるアンケート他
調査はがき	56 通
調査メッシュ	101 メッシュ (3次メッシュ)

第2次県内野鳥分布調査 2008/09 年冬は、表1により実施された。本稿では、その中で、今回の注目種ユリカモメを報告する。

5シーズンの積算データと1シーズンの数字を単純に比較することはできないが、ユリカモメの生息メッシュ数4は、第1次県内野鳥分布調査(1985/86 冬～1989/90 冬)で得られたメッシュ数54より、大変少ない。今回の結果を、1:25,000 地形図を縦横4分割したメッシュで図1に示す。(小荷田行男)

表2 注目種ユリカモメの調査

調査はがき	4 通
生息メッシュ	4 メッシュ



夏鳥調査の注目種は「カッコウ」!

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

県内全域を対象に、今季も夏の野鳥調査を実施します。2009年5月10日から7月10日までの間、留鳥を含め、県内で観察された全ての野鳥と観察地点を、6月号に同封する調査はがきに記入してお送りください。

今回、調査はがきの表面に記入して頂く注目種はカッコウです。カッコウなら鳴き声だけでも確認できますね。また、近年、住宅地や町中の公園でも確認することがあります。多くの方々の参加をお願いします。(小荷田行男、石井 智)

会員の活動を報告します

田中幸男(蓮田市)



○「蓮田市環境学習館(以下学習館)」でのバードウォッチング(以下BW)は、今年の4月を持って丸4年を迎えました。このBWは、学習館が2005年の開設と同時に、原則毎月第1土曜日に開催され、元

支部長でもある中島幹事を講師に、玉井・田中幹事、赤坂リーダーが担当しています。この間、雨天の1回を除いて欠かさず開催しており、参加者は近隣市町からの方もおられます。

毎月黒浜沼周辺を中心にBWをしておりますが、年1回は市外の井頭公園(栃木 写真右上)・北本自然観察公園・菅生沼(茨城)などでBWをしております。

○学習館BW以前は、蓮田市中央公民館の主催で10~3月の年5回、1994年から2005年まで、中島幹事を講師にして、多くの支部会員の方々の応援のもと、毎年実施されておりました。それが開館と同時に学習館に移行し、毎月開催されるようになりました。

○学習館は、従前「農村センター」でしたが、当地での「NPO法人 黒浜沼周辺の自然を大切にす会」の各種活動、公民館BW、公民館植物観察会、そして長年にわたる支部主催の当地での探鳥会などの活動(写真左上)が認められ、環境学習・ビジターセンター・コミュニティセンター機能をもって2005年に開館しました。

尚、4月から学習館の管理・運営は、BWの主権を含め、蓮田市から同NPO法人が受託することになりました。

○公民館BWから学習館BWまでの活動は通算すると今年の11月で丸15年になりますが、この間、歴代支部長はじめ多くの支部会員の方々の協力をいただいた結果が今日に至っております。感謝。



遠出探鳥会は楽しみです

間正理恵(狭山市)

鮫鯨鍋と温泉を堪能した翌2月1日の午前中に訪れた快晴の沼の内漁港でのドラマを紹介します。

ワシカモメが、双眼鏡を出す前に飛び立ってしまい、がっかりしている私たちの目前に、黄色い足に濃灰色のドバトをつかんだハヤブサが出現したのです。オオセグロカモメの若鳥が2羽、後ろから、上から、露骨に接近します。ハヤブサはハトを離すと上昇して逃れます。ハトの体は突堤で囲まれた静かな海面に浮かんでいます。ハヤブサは上空を行ったり来たりするばかりで降りてきません。1羽のカモメも、浮いている死体には近寄りません。やがてハヤブサが港を見下ろす崖の松にとまると、ハシブトガラスが1羽忍び寄り、藪の中から執拗に鳴きたてます。ハヤブサは枝を離れると、まずはカラスを追い立て、さらに突堤のカモメたちの中の、1羽のオオセグロカモメ若鳥の背中に急降下して飛び立たせ、それを最後に上昇して姿を消しました。

次に見えたときは、はるかな上空、真つ青な空をバックに、2羽のハヤブサが舞っていました。オスが、メスへの大事なプレゼントを落としてしまったのではなかったでしょうか？

一部始終を見ていたメスのところへ手ぶらで戻って行くとき、失敗を笑ったカラスのことと同じくらい、感激の声をあげながら観察していた私たちのことも嫌なやつらと思っただりかもしれません。次からは口を閉じ、見ないふりをしながらしっかり見よう・・・そして写真を撮ることを思い出そう(ただただ見とれていました。傑作を物にされた方、見せてください!)と反省しました。



野鳥情報

小川町八宮神社付近 ◇1月7日、トラツグミ1羽(石井智)。

羽生市羽生水郷公園 ◇1月17日、宝蔵沼で凍った水面でカルガモがスケーティング着地。オオバン5羽が氷の上を確かめるように歩いていた。モズがヒヨドリを執拗に追いかけたが逃げられた。三田ヶ谷池でヨシガモ♂3羽♀3羽、コガモ多数が杭の上で日向ぼっこ。湖岸のアシ原でオオジュリン、カシラダカ、ホオジロなど多数。広場でタカの影が走った。振り向くとノスリだった(長嶋宏之)。

鴻巣市川里 ◇1月18日、旧川里村役場付近でニューナイズズメ約20羽(石井智)。

吉見町八丁湖 ◇1月18日、マガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、コサギ、ダイサギ、アオサギ、ジョウビタキ、シメ、ツグミ、シロハラ、ビンズイ(藤原寛治)。

さいたま市緑区上野田 ◇1月26日午後3時、野田厩舎と北側の田んぼとの間の電線上にミヤマガラス3羽。田んぼを一回りして戻ってきてみると、厩舎の塀の内側からミヤマガラスがどンドン飛び出してきて、電線に鈴なりになってとまる。その数約120羽。少しして一斉に飛び上がり、田んぼと厩舎の内側に分かれる(藤原寛治)。◇2月20日、タゲリ2羽、タシギ1羽(鈴木紀雄)。

さいたま市緑区高畑 ◇2月12日、埼玉スタジアム付近でオオタカ飛翔(藤原寛治)。

さいたま市岩槻区加倉5丁目 ◇2月1日朝、「ピュルピュル、ホーホケキョ」などいろ



ハイイロチュウヒ(内田孝男)

いろな声で長いさえずり。何が鳴いているのだろうと窓から見ると、自宅のハナミズキでモズが鳴いていた。お昼頃にも同じ場所と同じように鳴く(藤原真理)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇2月3日、久々にアシ原でオオジュリン。ウソ♀1羽は孤独な越冬を続けている。2月18日、カイツブリ、カワウ、コサギ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ♂1羽♀1羽、カワセミ。モズ、よく鳴いて目立つ。つがい形成のためと思われる。ジョウビタキ♀1羽、シロハラ、ツグミ、トラツグミ、ホオジロ♂がさえずる、カシラダカ、アオジ、オオジュリン、アトリ、シメ、カケスなど計34種(鈴木紀雄)。◇2月22日、アカハラ♂、♀合わせて3羽。シメ多し、アオジ、ホオジロ。駐車場付近でハイタカ1羽、カラスに追われる。元荒川でヒドリガモ60~70羽、カルガモ、コガモ、セグロカモメ1羽、イソシギ1羽(藤原寛治)。

さいたま市岩槻区新方須賀 ◇2月25日、タゲリ4羽、タヒバリ、ツグミなど(鈴木紀雄)。

さいたま市浦和区調神社 ◇2月18日、車と人が行きかう旧中仙道沿いの、1歩入った境内で、アトリ100羽+(海老原美夫)。

さいたま市見沼区膝子 ◇2月20日、ミヤマガラスとハシボソガラスの混群約50羽。2月25日、タゲリ1羽、ホオアカ1羽、ミヤマガラスなど(鈴木紀雄)。

さいたま市桜区大久保農耕地 ◇2月28日、B区でタゲリ80羽+。上を見て警戒をはじめ、いつせいに飛び立ったときには、空のどこかにオオタカの姿が見える。さすがに目ざとい(海老原美夫)。

蓮田市西城沼公園 ◇2月1日、近頃コジュケイが朝、鳴いている。2月18日、キジバトが鳴きだした、春が近い。コサギが岸で採餌していた。この公園では初見。その他、カワウ、アオサギ、ルリビタキ各1羽、ツグミ多数。2月25日、ハシボソガラスが巣材を運んでいた。ヒヨドリが十数羽、梅の花の蜜を吸っていた。シメが一本のクヌギの梢に19羽群がっていた。その他、アオサ

ギ、カワセミ、シロハラ、セグロセキレイなど（長嶋宏之）。

蓮田市笹山 ◇2月2日、電柱にハヤブサがとまっていた（鈴木紀雄）。

蓮田市蓮田 ◇2月11日、自宅庭の金魚を飼っている池でスズメ、シジュウカラ5～6羽、ウグイス、メジロが代わる代わるやって来て水浴び。愛らしい。2月24日、この冬の嵐でビニール紐とシュロでできた直径8cm位の小鳥の巣（メジロの巣のようです）が自宅横に吹き寄せられてきた。2月26日午前10時、アオゲラ1羽、ツグミ、オナガ、スズメなど（本多己秀）。

蓮田市蓮田根ヶ谷戸公園 ◇2月12日、シジュウカラの群れ、ツグミ、メジロ、ウグイス。2月17日午前7時過ぎ、ジョウビタキ♂1羽。2月18日午後4時、アトリ2羽、シジュウカラ3羽、ツグミ2羽、ヒヨドリ、ムクドリ。2月24日午前7時、シメ1羽、メジロ、シジュウカラなど。2月26日午前11時、アトリ12羽、桜の木の枝に並んだ。地鳴きは「ツツツツ」と聞こえた。他にハクセキレイ、ツグミ、ムクドリ。3月1日午前7時～8時、シメ5、6羽、オオタカ飛翔、ツグミ5羽、ムクドリ、シジュウカラ、メジロ、ヒヨドリ、キジバトなど（本多己秀）。◇2月22日朝、ジョウビタキ♂若鳥1羽。コブシ、ボケ、福寿草開花（本多己秀・久文字）。

蓮田市黒浜 ◇2月18日、上沼でカルガモ、コガモ、マガモ♂1羽♀2羽、オカヨシガモ♂1羽♀2羽、オオバン、タシギ。チョウゲンボウ♂1羽、上空飛翔。2月25日、下沼の上をノスリが低く飛ぶ。東埼玉病院東縁でシロハラ、ヤマガラ約5羽（鈴木紀雄）。

菖蒲町小林 ◇2月2日、小鳥たちが遠方で散り散りに舞い上がった。確認したらコチョウゲンボウ♂1羽が降りていた。ニューナイスズメ約30羽。2月19日、ニューナイスズメ約50羽（鈴木紀雄）。

久喜市菖蒲公園 ◇2月14日、昭和沼でアメリカヒドリのきれいな♂1羽。2月15日、ここでは珍しいセグロカモメ1羽、棧橋で

休んでいた。松林でビンズイ5羽、採食。ヨシガモ♂2羽♀3羽。カンムリカイツブリ6羽、内繁殖羽に変わりつつある個体1羽。その他、キンクロハジロ、ヒドリガモ、ホシハジロなど多数（長嶋宏之）。◇2月19日、昭和沼でアメリカヒドリ♂1羽、ヒドリガモ、ヨシガモ♂1羽、ホシハジロ、キンクロハジロ、コガモ、マガモ、カンムリカイツブリ、オオバンなど（鈴木紀雄）。

滑川町武蔵丘陵森林公園 ◇2月17日、山田大沼で亜種アメリカコガモ♂1羽、側に付き添っているのは♀のようだ。岸辺にキセキレイとアオジ。林の奥からアオゲラの声。ガビチョウの声も大きい。小路ではルリビタキが多い。全部で10数羽観察。シメもあちこちにいる。枝移りするコゲラの赤いところが見えた。疎林地帯でシロハラが落ち葉を裏返している。ビンズイ、カシラダカも採餌。突然コジュケイが5羽、藪から飛び出す。その他、カワセミ、ジョウビタキ、エナガ、ホオジロ、オオタカなど（長嶋宏之）。

坂戸市大字多和田 ◇2月18日午前9時7分、田んぼの地面にいるツグミ、カシラダカの群れ、ホオジロなどを観ていると、突然一斉に飛び立つ。「どうして？」とよく見ると、小鳥たちのいた所にオオタカの姿。狩に突っ込んだが失敗したのです。3分間ほど佇んでいた後、飛び去りました。8mほどの目前で見た出来事でした（増尾隆）。

坂戸市浅羽 ◇3月5日午前10時頃、鶴舞樹林でヒレンジャクとキレンジャクの混群約50羽。林の中で木から地面に下りて、群生するヤブランやジャノヒゲの実を採食していた（増尾隆・節子）。

騎西町中種足 ◇2月19日、遊水地でコハクチョウ成鳥1羽 幼鳥1羽（鈴木紀雄）。

騎西町内田ヶ谷 ◇2月19日、ミヤマガラスとハシボソガラスの混群約30羽（鈴木紀雄）。

表紙の写真

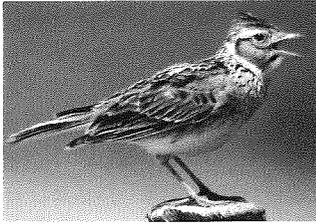
サギ4種の婚姻色

（3ページをごらんください。）

海老原美夫（さいたま市）



行事案内



ヒバリ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。 持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：5月5日（火・祝）

集合：午前9時40分、JR武蔵野線南船橋駅改札口付近。

交通：JR武蔵野線武蔵浦和8:35→南浦和8:38→南船橋9:30着。

担当：杉本、手塚、菱沼（一）、長谷部、伊藤（芳）、野村（修）、大塚

見どころ：絶好の潮回りです。始まりが干潮で、徐々に潮が満ちてきます。去年はユリカモメの渡りの群がみられました。今年はどうでしょうか。



オオソリハシシギ

東京都・三宅島探鳥会（要予約）

期日：5月8日（金）夜行（船中泊）～10日（日）
定員に達したので締めきりました。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：5月9日（土）

集合：午前8時40分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：田中、吉安、中島、赤坂、玉井、長嶋、長野、菱沼（一）、榎本（建）

見どころ：ここ数年シギやチドリの飛来が遅いので日程をずらして、いつもの元荒川・川島橋をスタートします。笹山・黒浜の田んぼと黒浜沼周辺、環境学習館までの片道コースを歩きます。ムナグロ、コアジサシ、オオタカ、カワセミなどを期待します。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：5月10日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:49 発に乗車。

担当：中里、森本、大澤、倉崎、高橋（ふ）、後藤、藤田（裕）、栗原、飛田、新井（巖）、千島、鶯飼

見どころ：土手の木々も緑濃くなり、目をいやしてくれます。そんな木の梢ではホオジロが高らかにさえずり、ツバメは忙しそうに空を舞い、オオヨシキリは恋歌を唱っています。賑わいの大麻生にお出かけください。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：5月16日（土）

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線花崎駅改

札口。集合後徒歩で現地へ。または午前9時、加須はなさき公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部 8:21→久喜 8:34→花崎 8:41 着。JR 宇都宮線大宮 7:57→久喜 8:23 着で東武伊勢崎線乗り換え。

共催：加須はなさき公園管理事務所

担当：青木、中里、宮下、長嶋、四分一、栗原、内田、植平、長谷川、小林(正)、茂木

見どころ：5月のまぶしい光と緑の風を受けて、鳥たちは子育て真っ最中。ホオジロやオオヨシキリも賑やかにさえずっています。静かな公園とその周辺をゆっくりと散策しましょう。カッコウはいつものように鳴くでしょうか。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：5月16日(土) 午後3時～4時ころ
会場：支部事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：5月17日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅西口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

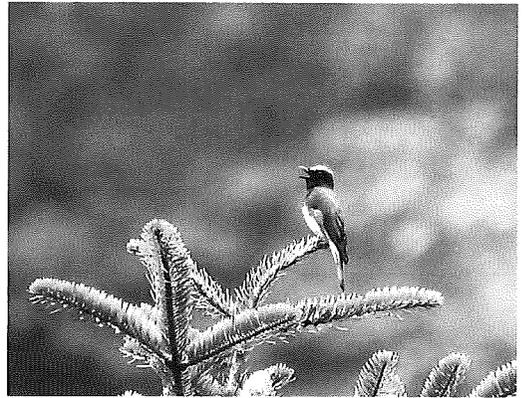
担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、船木

見どころ：ハナミズキの花が揺れて、見沼田んぼは初夏の装い。青葉がまぶしい季節です。今年の探鳥会では、1月にアトリ、3月にヒレンジャクが初出現しました。しかし、いつものようにカッコウが鳴き、いつもの夏鳥が、仲間の笑顔と共に、普段通り見られることも、うれしいものです。

長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日：5月23日(土)～5月24日(日)
定員に達したので締めきりました。

狭山市・入間川定例探鳥会



オオルリ(久保田忠資)

期日：5月24日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越 8:44 発、所沢 8:39 発に乗車。

担当：長谷部、高草木、中村(祐)、山本(真)、久保田、石光、山田(義)、山口、星、水谷

見どころ：オオヨシキリとササゴイを探しましょう。草むらや林の中から聞こえてくる声をたどっていくと、ホオジロやシジュウカラの幼鳥が見つかるかもしれません。

リーダー研修会(要予約)

期日：5月31日(日) 午後1時～午後5時

会場：さいたま市民会館うらわ

さいたま市浦和区仲町 2-10-22

TEL: 048-822-7101

交通：京浜東北線浦和駅西口から、徒歩約10分。駅前大通をまっすぐに西へ進み、さいたま会館手前の角を右折して約400m。

内容：日本赤十字社埼玉県支部の指導員により救急法(心肺蘇生法、AED取扱法)について講習会を行います。

参加者：当支部リーダーに限ります。

定員：30名

申し込み：はがきまたは電子メールにて、住所、氏名、電話番号を明記して 橋口長和

へ。5月24日まで

に。



行事報告

11月16日(日) 嵐山町 菅谷館都幾川

雨のため中止。(後藤康夫)

11月22日(土) 栃木県 奥日光

参加：36名 天気：晴

カンムリカイツブリ カワウ アオサギ マガモ
コガモ ヒドリガモ ホシハジロ キンクロハジ
ロ ミコアイサ カワアイサ トビ オジロワシ
オオワシ オオタカ ハイタカ ノスリ ヤマド
リ オオバン アオゲラ アカゲラ コゲラ ハ
クセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ カワガ
ラス ミソサザイ ツグミ キクイタダキ エナ
ガ コガラ ヒガラ シジュウカラ ゴジュウカ
ラ キバシリ シメ ハシボソガラス ハシブト
ガラス (37種) いろは坂を登ると積雪があったた
め予定を変更して菖蒲が浜で観察したのが幸いし
て、枝に止まっているオオワシをじっくりと見ら
れた。さらに青空を背景に頭上を旋回してくれて
皆大感激した。湯滝駐車場ではキバシリやカラ類
を見て、千手が原では、驚いたことに、数人では
あるがヤマドリを見ることが出来た。帰りの低公
害バス中からオジロワシの飛翔を見て、参加者皆
満足してくれたと思う。(玉井正晴)

11月22日(土) 春日部市 内牧公園

参加者：29名 天気：晴

コサギ カルガモ バン キジバト カワセミ
コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ
タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグ
ミ ウグイス シジュウカラ メジロ オオジュ
リン アトリ カワラヒワ シメ スズメ ムク
ドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス
(26種) 北風が吹いて木々の葉を散らし、鳥見に
は多少不適で、結果は26種と少なかったものの、
最後にアトリが出て、参加者全員が桜枝の1羽を
じっくり観察できたのは今回の白眉だった。

(石川敏男)

11月22~23日(土~日) 宮城県 伊豆沼

参加：23名 天気：両日とも晴

ミミカイツブリ カンムリカイツブリ ダイサギ
チュウサギ アオサギ シジュウカラガン マ
ガン ヒシクイ ハクガン オオハクチョウ コ
ハクチョウ マガモ カルガモ コガモ トモ
エガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ
ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ カワ
アイサ トビ オジロワシ ノスリ チュウヒ
ハヤブサ チゴハヤブサ コチョウゲンボウ オ
オバン イカルチドリ タゲリ ウズラシギ エ
リマキシギ オオハシシギ アオアシシギ タシ
ギ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ ヒ
バリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ
ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイ
ス ヤマガラ シジュウカラ ホオジロ カシラ
ダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニ
マシコ スズメ ムクドリ カケス コクマルガ
ラス ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブト
ガラス (65種) (番外：ドバト) 伊豆沼に6万羽、
蕪栗沼に5万羽。空を覆うマガンの大群の、夕暮
れ時の幻想と、夜明けの瞬発。このふたつの光景
の中に身を置いたとき、人は大きな感動を覚え、
大自然への畏敬の念を新たにす。今回もそんな
期待どおりの探鳥会だった。ことにシジュウカラ
ガンの60羽近い群れは、おそらくここ何十年来の
最多記録であろう。(榎本秀和)

11月23日(日) 本庄市 坂東大橋

参加：22名 天気：快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガ
モ トビ オオタカ ノスリ ハヤブサ チョウ
ゲンボウ イソシギ キジバト ヒバリ キセキ
レイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ
ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイ
ス ホオジロ カシラダカ カワラヒワ ベニマ
シコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス
ハシブトガラス (31種) 前日の風も治まって絶好
の探鳥日和。下見で水鳥がゼロという異常事態で
河原は断念し、草原を周回することにした。スタ
ートしてすぐにキセキレイ、シメ、ツグミが一度
に出現、さらに「ベニマシコ！」の声も上がり一
気に盛り上がる。期待の猛禽も次々に姿を見せ、
なかでも樹上で食事するチョウゲンボウ、水浴び
するハヤブサを全員で見ることができたのは幸い

だった。遡上した鮭、魚を捕まえたイタチのおまけもついて、皆さんの心がけのおかげで楽しい探鳥会になった。
(新井 巖)

11月23日(日) さいたま市 見沼自然公園

参加：57名 天気：曇後晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ バン オオバン キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) (番外：ドバト) 前日來の風も止み、おだやかな日だった。まず、加田屋川でアオサギを観察する。周辺の田んぼのあちこちからタヒバリが飛び出す、なかなかゆっくりと観察させてくれない。見沼自然公園の林では、アトリ20羽程の群れをじっくりと観察できた。皆大喜びだった。リーダー一同ほっと一息をつく。自然公園の池でカモ達を間近で観察して無事終了する。

(工藤洋三)

11月23日(日) 狭山市 入間川

参加：26名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) (番外：ドバト) ようやく冬鳥の姿が増えてきた。個体数はまだ少ないが、これからどんどん増えてくれるだろう。ただここ数年のカモ不足はどうしたものか。今回もカルガモとコガモの2種のみ。ちょっとさびしいよね。
(長谷部謙二)

11月24日(月、休) 蓮田市 黒浜沼

参加：57名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ コガモ クイナ バン オオバン キジバト アリスイ コゲラ ハクセキレイ セグロセ

キレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン アトリ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(36種)。環境学習館を出発してすぐの田圃でツグミ、カシラダカ、シメなどが現れ、その後も定番の鳥たちが楽しませてくれた。常連になってしまったアリスイも見られた。理由は分からないが探鳥会では1人で歩くときと比べて非常に出現率が高い。各地で多く出ているアトリが黒浜にも来ていた。のんびりと農村風景も併せて楽しんだ探鳥会だった。
(玉井正晴)

11月24日(月、休) さいたま市 秋ヶ瀬自然観察会

参加：12名 天気：晴後曇

ハンノキ天然林の樹木構成を被度(Braun-Blanquet法)で調査し、1980年のデータと比較した。その結果、6種から10種、湿原の林から湿性林へ、乾燥化に伴う遷移が進行中であることが判明した。

(小荷田行男)

構成	樹種名	1980年	2008年
高木層	ハンノキ	4	3
	クヌギ	2	2
	エノキ	・	2
亜高木層	ハンノキ	2	・
	オニグルミ	・	1
	エノキ	・	1
	ケヤキ	・	1
低木層	ゴマギ	1	3
	エノキ	1	・
	イボタノキ	+	+
	ノイバラ	+	1
	マユミ	+	+
	アオキ	・	1

当日採用した被度(優占度)階級の定義

5：調査区内の75%以上の面積を被覆。

4：調査区内の50～75%の面積を被覆。

3：調査区内の25～50%の面積を被覆。

2：10～25%以上か、個体数が極めて少ない。

1：個体数多く5%以下か、個体数少なく10%以下。

＋：個体数少なく、1%以下。

(被覆面積：木の地上部を地表に投影したもの)



●「緊急のお願い」にご協力いただき、ありがとうございました

前号このページでお伝えした支部ホームページの「緊急のお願い」と、3月9日に追加掲載した「お願い②」(追いかけて、近付きすぎたりしないように、など)には、たくさんの方々から様々なご協力をいただきました。お礼申し上げます。

多くの問題も残りましたが、より悪い事態の回避には、ほんの少しでも役立つのではないかと考えています。今回の経験は、今後の活動に役立ちます。引き続き、ご協力をお願いします。

●県内野鳥リスト 2009 作成

319 種を掲載した「県内野鳥リスト 2006」に、2008 年 12 月までに新たに確認されたハジロミズナギドリ (2007 年 9 月、川口市) オオチドリ (2007 年 10 月、本庄市) アメリカムナグロ (1987 年 4 月、さいたま市) ヨーロッパトウネン (2006 年 11 月、越谷市) の 4 種を追加した 323 種の「県内野鳥リスト 2009」を支部記録委員会が作成、印刷もできました。

各探鳥会で、順次使用されます。

●会員の保護活動

3 月 15 日 (日) さいたま市民家園周辺で開催されたさいたま市緑区主催「第 4 回見沼田んぼキレイ大作戦」に、藤掛保司支部長ら支部会員 8 名が参加、ゴミ拾いに汗を流しました。

●財団 (本部) 評議員会に出席

3 月 14 日 (土) 都内で開催された財団 (本部)

平成 20 年度定例評議員会に、橋口長和が関東ブロック推薦評議員の一人として出席。平成 21 年度予算案が承認されました。

●会員数は

4 月 1 日現在 2,155 人です。

活動と予定

3 月 14 日 (土) 4 月号校正 (海老原美夫・大坂幸男・藤掛保司・山田義郎)。

3 月 15 日 (日) 役員会 (司会: 石川敏男、各部の報告・簡易型の郵便振替専用入会案内パンフレット作成について・支部総会の日程について・その他)。

3 月 23 日 (月) 「支部報だけの会員」に向けて 4 月号を発送 (倉林宗太郎)。

3 月 25 日 (水) さいたま市内で開催された見沼田んぼ・さいたま市&市民ネットワーク平成 20 年度第 4 回運営会議に、楠見邦博が出席。

●事務局の予定

5 月 2 日 (土) 編集部・普及部・研究部会。

5 月 9 日 (土) 6 月号校正 (午後 4 時から)。

5 月 16 日 (土) 袋づめの会 (午後 3 時から)。

5 月 17 日 (日) 役員会 (午後 4 時から)。

編集後記

三脚が凍り付いて伸縮できなくなってしまふ。ビデオ用雲台の油が硬くなって、なかなか動かない。バッテリーは、撮影時以外使い捨てカイロと一緒にポケットに入れておかないと、すぐ消耗してしまう。スカンジナビア半島北端の 3 月は寒かった。(海)

しらこぼと 2009 年5月号 (第 301 号) 定価 200 円 (会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号
TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635
本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社